



あけましておめでとうございます。

皆さま、それぞれの新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、介護保険制度もスタートして、今年の4月で丸18年が過ぎようとしており、『介護保険』『ケアマネジャー』という言葉は社会に浸透した感があります。しかし、今その制度も大きな変革のときを迎えようとしています。以下の2つがその具体的なことからの一端です。

- ①要支援者の一部が市町村の総合事業に振り分けられること
- ②社会保障審議会介護保険部会において、居宅介護支援費の自己負担導入が再検討されていること

その背景には、未曾有のスピードで高齢化の道をひた走る我が国の人口構造の変化とそれに伴う社会保障費の増大があります。介護保険サービスの利用を抑制し、市町村や利用者の負担を増やすことにより、国の負担を軽くしようとするものです。そして、これらのことは『地域包括ケアシステム』の構築が迫られていることと同根です。

『地域包括ケアシステム』は高齢者等が要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるように地域がサポートし合う社会のシステムのことです。元来、ケアマネジャーは、ケアプランの作成以外の業務の一つとして、地域の社会資源の開拓もあったわけですが、もし、この部分の機能が十分に発揮されていれば、あえて『地域包括ケアシステム』という概念を持ち出さなくても、その目的は達成できたのかもしれないと、わたしは考えております。いずれにしろ、『地域包括ケアシステム』のアウトカムはケアマネジャーの目指すべきところと一致します。ぜひ、『地域包括ケアシステム』構築のためにも、ケアマネジャーは一働きしたいものです。

ところで、今年の干支の酉ですが、「とりこむ」と言われ、商売などでは縁起の良い干支です。さらに、酉の干支の特徴として、“親切で世話好き”とあります。親切で世話好きなケアマネジャーがその役割を十分演じ、事業所も繁栄することを祈念して、私の新年の挨拶に代えさせて頂きます。今年もよろしくお願い致します。



## 群馬県医師会との合同理事会開催

副会長 松沢 斉

平成28年11月4日（金）19:00～当協会と群馬県医師会の初の合同理事会が、高崎市のホテル メトロポリタンで開催されました。これは5月の定時総会後の懇親会で、当協会の大沢会長の提案に、県医師会の長坂理事が賛同して実現したものです。当協会からは大沢会長・浅沼副会長ほか10名の理事が、県医師会からは須藤会長・川島副会長ほか5名が出席しました。

当協会の大沢会長、県医師会の須藤会長より開会のご挨拶があり、地域包括ケア体制の構築・在宅医療介護連携・様々な制度改正に向けて両会の連携が不可欠ということを一帯が再確認しました。この合同理事会も今回を「第1回」として今後も継続していきたいとの言葉もありました。

その後、菅野学術研修委員長をファシリテーターとしてグループワークが行われました。各グループがケアマネ3～4名、医師2～3名という構成で行われたグループワークは適度な緊張感の中に笑いも交えながらの楽しい時間でした。「在宅での医療・介護の連携がイマイチうまくいかなかった事例」という何とも微妙に挑戦的でデリケートなお題に対して、「独居の末期がんの方が結局は自分の意思に反して家族の意向で入院し、亡くなったケース」を事例提供してくれた須田理事の勇気には改めて感謝いたしたいと思います。菅野委員長のリードにより、KJ方で用いた付箋がテーブルを埋め尽くさんばかりになろうとする過程を共有できたことは実に有意義であったのと同時に、医師とケアマネの視点の違い、同じケアマネでも基礎資格や所属機関の違いによって異なる視点に触れ、あらためて「多職種協働」の必要性を感じさせられる時間でもありました。

さらにその後はお約束の懇親会。飲むほどに酔うほどにどのテーブルからも「遠慮」というものが良い意味で薄れ、2時間前と比べて明らかに近くなったお互いの距離感は、第1回合同理事会の成果を感じさせ、決して遠くない将来に第2回が開かれる予感を残してくれたものと、この文章を書きながら振り返っている次第です。ありがとうございました。



社会福祉法人群馬県共同募金会

赤い羽根共同募金



会報「ケアマネ群馬」は赤い羽根共同募金の助成を受けて発行されています。

## 群馬ケアマネジメント研究会ユースセッション 研修会の報告



昨年から次世代を担うケアマネジャーの人材育成を目的に活動を開始している群馬ケアマネジメント研究会ユースセッションですが、本年度も昨年度同様に、群馬県より地域医療介護総合確保基金事業補助金をいただき研修会を引き続き行っています。

補助金事業としての本年度第1回目の研修会は「相談援助職の専門性とは」をテーマに11月5日に前橋問

屋町センター会館で開催されました。主な内容としては、次世代を担う病院ソーシャルワーカー、介護老人保健施設の支援相談員、居宅介護支援事業所のケアマネジャーの3名に自ら考える「相談援助職の専門性」についてプレゼンテーションをして頂き、後半の部ではグループワークを通して、参加者の活発な意見交換を行いました。

当日は県内より70名を超える参加者があり、グループワークでは主体的で活発な議論ができました。病院ソーシャルワーカー、介護老人保健施設の支援相談員、ケアマネジャーともに共通する専門性もあり、単に法令順守のみでなく相談援助職としての在り方や姿勢などを改めて考えることができました。また、今後の自らの資質向上に向けて、医療・介護のさらなる連携の推進に向けて効果的な研修会となりました。研修会終了後は参加希望者による懇親会を開催し、県内の各職種の顔の見える関係づくりを行いました。

本年度は平成29年3月にも研修会を予定しております。テーマ未定ですが、医療介護の連携や多職種協働、その中でケアマネジャーの専門性について考えられる機会としたいと考えております。詳細や申し込みについてはFacebookで情報発信いたします。「群馬ケアマネジメント研究会ユースセッション」とWeb上で検索いただければ確認いただけますので、是非、ご参加頂ければと思います。



じゃんけんぼん地域生活支援室 須田 和也

日本協会・全国大会（北海道）

## 「第10回 日本介護支援専門員協会全国大会 in北海道」に参加して

平成 28 年 10 月 15 日から 16 日の2日間かけて日本介護支援専門員協会全国大会 in 北海道「CareManagers,be ambitious!～介護支援専門員よ大志を抱け!」に参加し、我々ケアマネジャーが大志を抱けるような全国大会となりました。

（1日目）

開会式後より、厚生労働省老健局振興課課長補佐の佐藤美雄氏の基調講演でした。テーマとしては「地域包括ケアシステムの構築とケアマネジャーの役割」で介護保険を取り巻く状況や今後の改正に向けた動きなどを説明頂きました。

その後「CareManagers,be ambitious!～自立支援と公正中立のエビデンス～」と題して前沢政次先生ほか3名のシンポジウムが開催されました。それぞれシンポジウムの方の発言では「法令や制度改正のみから考えるケアマネジメントでは不十分。技術としてのケアマネジメントを確立しなければ。」という言葉や、「専門用語に溺れないこと。いかに分かりやすく説明できるか。」という発言が印象的でした。

1日目の最後には「RESTART! More challenge!～夢を主語に、挑戦する町へ～」と題した夕張市長 鈴木直道氏の記念講演でした。夕張市の抱えていたこれまでの問題や現在取り組んでいること、「夕張市の今こそ、2025年の日本の縮図である」というような大変興味深い講演の内容でした。1日目のプログラム終了後は懇親会が開催され、全国のケアマネジャーの皆さんと貴重な意見交換が行えました。



（2日目）

大会2日目は6つの会場での分科会を開催いたしました。群馬県からは分科会でのテーマ「医療と介護の連携・ターミナル期支援～終末期を支えるチームケアに必要な視点～」として居宅介護支援事業所さくらの新井薫さんが発表され、全国の参加者から数多くの質問や関心が集まりました。

私自身は「群馬ケアマネジメント研修会ユースセッションにおけるケアマネジャー人材育成」をテーマに次世代人材育成について発表をさせて頂きました。会場で様々な立場の方と意見交換をさせて頂き、大変貴重な経験となりました。

平成 29 年は石川県金沢市で開催予定となっています。是非皆さんで参加して全国の仲間と学びあいましょう。

広報情報委員 須田 和也

# 理事会・委員会報告

## 理事会

会長 大澤 誠

群馬県医師会との合同理事会が、11月4日に開催された。例年開催している特別講座について、日程は1月、2月の会場の空き状況等によって決定（⇒1月29日に決定）。内容は「訪問看護ステーションの使い方」について、今回は講師を招いてではなく、学術研修委員会で進行することを決めた。ケアマネぐんま100号記念紙を会員ならびに関係諸団体に送付したことが報告された。県依頼の、医療介護連携調査実施事業にかかる退院調整状況調査について、昨年モデル事業を行った渋川市に加え、今年度よりスタートを切った各市において、11月の一ヶ月間、入退院者調査実施を進めることになった。ケアマネジメントフォーラムXIV実行委委員会が10月27日よりスタートした。

## 総務財政委員会

総務財政委員長 松沢 斉

総務財政委員会は、例年この時期年会費未納の方に呼びかけを行っております。これが結構気を遣うんですよ。いかにも「取立て」「催促」という言い方をして却って裏目に出ないだろうか？とか、せっかく「遅くなってしまったけど会費を振り込まなくちゃ」と思っている人の自発的な気持ちを萎えさせてしまいはしないだろうか？とか。みなさんお互いのためにも、会費の納入はお早めをお願いします。さてその会費ですが、会の適正な活動を支える大切なものです。県協会は4,000円、日本協会は5,000円です。ときどき「会費に見合ったメリットがないと・・・」という人がいますが、会費は会員たちの職能を守るための活動費です。5,000円払ったからといって5,000円分の商品券がもらえたりはしません。お近くの非会員の方にご理解いただいた上で、新規入会していただければ幸いです。

## 学術研修委員会

理事・同学術研修委員長 菅野 圭一

7月にケアマネフォーラム、9月にケアマネ受験対策講座が終了し、ちょっと一息ついていました。平成28年度の群馬県介護支援専門員実務研修受講試験の結果は、受験者数1841名に対し、合格者数は255名（合格率13.9%）とのことで、かなり狭き門でした。当対策講座受講者の合格率が気になるところです。さて、11月以降は1月に行われる特別講演の準備に入りました。今年は、「クイズでわかる！介護保険医療系サービスの上手な使い方」と題して、皆様にクイズで楽しみながら医療系サービスの知識を再確認してもらおうと計画しています。楽しみにお待ちください。

## 広報情報委員会

広報情報委員長 松本 勝美

ケアマネ群馬100号記念号を無事に発行できました。記念号を見ながら少しだけ昔のことを思い出して頂くのも一興かと思えます。101号からは、カラー化も実現できケアマネ群馬も広報紙としてより見やすくなったのではないのでしょうか。今後はホームページのリニューアルを検討していき、情報社会における広報活動の幅を広げていけるように工夫していきます。ケアマネ群馬やホームページについてご意見やご感想がありましたら、各支部の広報情報委員にお伝えください。参考にさせて頂き、より良い形に変更していきます。皆様のご意見をお待ちしております。今後も群馬県介護支援専門員協会の活動と支部情報および協会の活躍状況をお伝えしていけるよう努力してまいります。

# 支部情報

## 太田支部

平成28年10月19日(水)午後7時から、約70名の参加で、「社会資源の活用ーケアプラン作成に必要なインフォーマルサービスの活用」をテーマの研修会が開催されました。

講師は、傾聴ボランティアの代表者、地域で古民家を利用したカフェを開業された方、コミュニティーカフェよろず悩み相談をされている方、シルバー人材センターの方、地域で活躍されている4名でした。その中で介護保険制度の基本的な考え方の「自助」「互助」「共助」「公助」の中で、とても大切な「互助」について学ぶことができました。人の集まる場を作り、人と人を繋ぐ実践をされている方々のお話は、これからの地域ケアシステムを考える上で、とても参考になりました。

住まう地域の中にたくさんの方々が活動できる場を作り、生きがいを見つけた人たちの元気の輪があちこちにでき、ケアプランの中に当たり前インフォーマルサービスが入れられ、地域で支え合って暮らしていけるようになったら、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるのではないかと感じます。

これからも地域の方たちと「繋がる関係作り」を積極的に行い、安心して暮らせる街づくりに参加していきたいと思います。

(あんしん介護計画 清水 浩美)

## 富岡・甘楽支部

富岡・甘楽支部では、11月26日(土)に富岡市生涯学習センターにおいて、支部設立15周年記念事業を開催しました。開会式では、大澤会長、富岡市長、地元医師会長にご出席頂き、丁寧な挨拶やご祝辞を賜りました。

公開講座では、「老後の用意周到講座」と題し、ホームヘルパー資格を持つ弁護士、外岡潤先生に遺言書、施設選びなどについて解説をしていただきました。

遺言書は、トラブルを避けるために元気なうちに素直な気持ちを、できれば家族ぐるみで作成する。施設選びは、スタッフが誠実で信頼できるかなど、「人」を見極めること。介護生活の大切なパートナーである私達ケアマネジャーもその対象となります。公開講座の前後には、関係機関の協力により、歩行年齢チェックや認知症無料相談なども開催しました。

この場をお借りし、事業にご協力頂いた、関係者皆様方に心より御礼申し上げます。

(居宅介護支援事業所みょうぎ 飯ヶ浜 一美)



## 多野藤岡支部

11月15日(火)19時から藤岡市役所中庁舎で、多野藤岡地域リハビリ研究会主催・群馬県認知症疾患医療センター篠塚病院共催の研修会「認知症で自動車運転に固執した症例へのアプローチ」が開催されました。主催・共催ともに、当地域のケアマネジメント活動に密接な関わりがある団体・機関です。折しも認知症高齢者による痛ましい自動車事故が相次ぎ、まさに社会の耳目を集めているテーマでもありました。

参加者66名、うちケアマネージャーは15名が参加。診療内科医 相原優子先生の症例紹介を受けて、5名程のグループごとに課題への対応策を検討して発表。限られた時間ではありましたが、プラス面に目を向けた提案とともに、思いもよらない斬新な意見も出て、先入観・固定観念に捉われない視点の大切さを再認識しました。その後、篠塚病院の八鍬作業療法士さんから、症例への取り組み内容・経過の説明があり、更に相原先生からの補足説明と、予定されていた1時間半は、まさにあっという間に過ぎていました。

多職種協働の推進と地域包括ケアシステム構築が叫ばれる中、地域で開催される対人援助関連の研究会に積極的に参加し、各々の資質向上を図るとともに、各種団体・機関との連携を深めていくことの重要性を実感した研修会でした。

(特別養護老人ホームふじの里 小出 良一)

## 桐生・みどり支部

10月19日(水)18時30分より第7回桐生市医師会・介護支援専門員合同研修会が開催されました。120名ほどの出席をいただき、普段お目にかかれない先生方との交流が出来ました。特別講演では講師に東京大学高齢社会総合研究機構 教授 飯島勝矢先生をお招きして「超高齢社会を見据えた未来医療予想図」～今 求められる包括フレイル予防戦略～と題し講演いただきました。フレイルという言葉は初めて聞きましたが、それが健康な状態と要介護状態の中間的な段階として提唱されており、筋力や心身の活力が低下した状態を言うそうです。フレイルは転倒・骨折・要介護状態、死亡などの転帰を招くことから不可逆に進行すると考えられがちですが、適切な介入により再び健康な状態に戻るという可逆性を有することが特徴であるという嬉しい内容でした。しかもフレイルチェックには元気シニアを養成して任務に当たってもらうと言うことで、安倍政権が掲げる一億総活躍プランの一端を担えるのではと確信しました。『気づき・自分事化』し関わる自分たちも変わっていく事が重要だと思いました。

(居宅介護支援事業所みらい 井出 早百合)



## コラム

### 認知症の人も意思決定が重要です

ニュースなどで多くの人々が認知症となり、今後ますます増えるというようにことを耳にします。各市町村でも認知症の方への支援など多くの取り組みを行っている状況です。中には金銭管理や自分の財産管理ができなくなってしまい、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業で金銭管理をお願いしたり、成年後見人が選任され介護サービスなどの利用契約などを代理で行ってもらったりする人も見受けられるようになりました。

しかし、よく考えてみると様々な制度や取り組みはありますが認知症は特別な人でしょうか？もちろん同居して介護されている周りのご家族は大変な思いをされている方もいると思います。それでも認知症の人は特別な人ではなく、私たちと同じで人として大切にしてほしいという気持ちをもっています。どんな制度やサービスなどを利用するにしても、認知症の人の意思決定を可能な限り尊重することが必要です。

(基礎資格 社会福祉士 KS)

## 事務局からお知らせ

### 会員登録に変更のある方へ(お願い)

住所変更・勤務先変更等のある方は変更届のご提出をお願いいたします。  
提出いただけない場合には、郵便物等お届けできなくなってしまいます。  
また、勤務先変更した場合、支部が変わることがありますので、必ず提出して下さい。  
変更届・入会申込書・退会届につきましては、本会ホームページより《事務局から→変更届(こちらから)・退会届(こちらから)》からダウンロードしていただき、必要事項を記入しFAX送信していただくか、本会事務局までお問い合わせください。

一社) 群馬県介護支援専門員協会事務局(群馬県社会福祉協議会 地域福祉課内)

TEL 027-255-6226

FAX 027-255-6173

事務担当 新井



## 編集 後記

明けましておめでとうございます。昨年の反省は、努力したことの結果が出なかったことです。原因は努力と知識不足。今年の目標は、新しく出会うであろう人々と物事に対し、丁寧に接して私と出会って良かったと思ってもらうことです。年末に努力不足と反省しないように頑張ります。(T)